

動物介在教育・療法学雑誌投稿規程

(Journal of Animal-Assisted Education and Therapy, 略称 J. Anim. Edu. Ther.)

1. 動物介在教育・療法学雑誌 Journal of Animal-Assisted Education and Therapy (略称 J.Anim. Edu.Ther.) は、動物を介在させることでヒトの健康増進および QOL (Quality of Life) の向上、動物を介在させた教育効果ならびに介在動物の健康および基準などを掲載する英文あるいは和文学術雑誌で、当該領域の発展に寄与することを目的とする。本誌に投稿される論文はその内容が未発表かつ未投稿で独創的な知見を含み、さらに、内容を十分に理解できるネイティブスピーカーによって英文チェックを受けたものに限る。投稿者は会員に限る。ただし、共同研究者は会員以外でも差支えない。なお、すべての投稿論文は編集委員および複数の審査員により採否を決定する。
2. 投稿者は投稿論文内容や手続き全般において人権の尊重と福祉に充分配慮し、かつまた研究に活用された動物は「動物の愛護および管理に関する法律」を遵守した条件下で飼育管理され、動物の福祉に配慮したものであり、そして当該論文がこれらに従って実施された旨を本文中に明記すること。
3. 論文は当学会のホームページ (<http://asaet.org/sciencet/journal/>) 上に公開する形式を持って公表する。したがって、投稿論文内容は一般公開を前提とした妥当な記述であること。
4. 論文の種類は、以下のとおりとする。
 - (1) 原著 (Original Article) : 独創的研究によって得られた新知見を含む論文とする。
 - (2) 短報 (Short Report) / 事例報告 (Letter) : 公表する価値は十分あるものの原著としてはデータの不完全な研究成果、十分な考察や意義づけはできないが興味深い事例、ネガティブデータだが、学術的重要性が高いと思われる知見などの論文とする。
 - (3) 総説 (Review, Mini-review) : 編集委員会が執筆を依頼する。興味深い最新の知見を全般的に紹介するものを Review とし、主として著者らの最近の研究を紹介するものを Mini-review とする。
 - (4) 特集 (Topics) / 講演論文 (Lecture) : 本機関紙には上記論文種のほかに、学術総会でのシンポジウムなど、特に会員相互の知識や意識の共有に有用であると編集委員会が認めた内容を掲載する。
 - (5) 動物介在教育・療学会学術大会発表要旨 : 学術集会の予稿集を巻末に掲載する。
5. 論文は表題や図表がない場合 1 ページあたり英文でおよそ 4000 字、和文でおよそ 2000 字とし、刷り上がりが原著は 8 ページ以内、短報および Mini-review は 4 ページ以内とする。Review はページ数を制限しない。規定のページ数を超えた場合、超過分の編集代は著者負担とする。論文は原則、電子メールによる受付とする。
6. 投稿原稿は A4 版に上下左右に十分な余白を取り、1 ページ 40 文字 24 ~ 26 行 (およそ 1000 字)、記述する。
7. 原稿の第 1 ページ (表題ページ) に日本語と英語の両方で、表題、著者名、所属機関名、論文

種, running title (スペースも含めて 70 文字以内), および日本語でカテゴリー (下記参照) を記す。次いで日本語で連絡者の氏名, 所属機関および住所, 電話番号, E-mail アドレス (必須) を記載し, さらに英文チェックを受けたネイティブスピーカーの氏名 (または会社名) および住所を記入する。

《カテゴリー》 下記の中から 3 つ以内を選択して, 関連性の高いものから順に記号を記載すること。

A1 介在動物の育成

A2 介在動物の選択基準・適性基準

A3 介在動物の福祉

A4 介在動物の健康管理

A5 介在動物 (イヌ, ウマなど)

B1 動物介在療法プログラム

B2 動物介在教育プログラム

B3 動物介在療法対象者事例

B4 動物介在教育対象者事例

C1 専門家制度

C2 専門家の資格基準・養成

C3 専門家の教育基準

8. 第 2 ページに英文および和文の Abstract/ 要約 (英文の場合, 原著および Review では 250 語以内, 短報および Mini-review では 120 語以内) および 3 ~ 6 語の Key words/ キーワードを記す。英文論文・和文論文を問わず, 英文と和文の両方を記すこと。
9. 第 3 ページ以後の記述の順序は, Introduction, Materials and Methods, Results, Discussion, Acknowledgments および References の順序で本文を記述する。Results と Discussion をまとめて Results and Discussion として記述してもよい。短報では, References 以外は項目わけをしない。
10. 略語は初出時に一旦スペルアウトし, その直後に略語を () 内に示し, 以下その略語を用いる。
11. 数字は算用数字を用い, 度量衡の単位および略語は次のように使用する。
cm, mL, g, hr, min, sec, SD, SE, °C など。
12. 固有名詞は最初の文字を除いては小文字とし, 動植物名の学名はイタリック表記とする。
13. 図・表・写真は必要最小限にすること。図表はパワーポイントやエクセル等の別ファイルに作成したものとする。図表の番号は一連の通し番号をつけ (例, Table 1.), 注釈も挿入し, 図表および写真の挿入箇所を本文中に指定すること。写真は jpg の原版であることとし, 容量が大きくメールで送付できない場合は CD に複製し事務局まで郵送すること。
14. 引用文献は, 本文中に著者および年号を () に記す {例, 英文 (Higuchi 2008) または (Higuchi and Matoba 2008), 和文: (樋口 2008) または (樋口・的場 2008)}。本文中著者が 3 名以上の場合, 引用文献中で区別の付く限りにおいて, 筆頭著者のみを表示する {例, 英文: (Higuchi et al 2008), 和文: (樋口他 2008)}。引用文献リストは著者のアルファベット順に示すこ

と。記載順序は雑誌の場合は、「著者氏名. 年号. 論文名. 雑誌名, 巻, 頁.」とする。英文著者の名前のイニシャルに「.」は付けない。雑誌名は省略しない。単行本の場合は「著者氏名. 年号. 論文名. 引用頁, 書名, 編著者名, 発行所, 所在都市名.」とする。

《例：雑誌》

慶野宏臣, 慶野裕美, 川喜田健司, 美和千尋, 舟橋厚. 2008. 広汎性発達障害のある子どもたちに乗馬活動することによる療育支援効果発現とその経過. ヒトと動物の関係学会誌, 20, 74-81.

Kakinuma M, Hamano S, Hatakeyama H, and Y, Tsuchida A. 2006. A comparison of captive chimpanzee mother's and adult daughter's maternal behavior. The Bulletin of the Nippon Veterinary and Life Science University, 55, 52-60.

《例：単行本》

安藤孝敏. 2003. 人とペットの関係を評価する尺度. pp.166-183, 「人と動物の関係」の学び方, 桜井富士朗・長田久雄編著, インターズー, 東京都.

15. 本誌に掲載された論文の著作権は特定非営利活動法人 動物介在教育・療法学会に帰属するものとする。転載時にはその都度本編集部の許可を必要とする。ただし、論文の内容に関する責任は著者が負うものとする。
16. 原稿はいずれも PDF 変換したものあるいは web ページで保存したものを下記の送付先に電子メールにて投稿する。原稿が受理された段階で、再度マイクロソフト ワード XP/2000 以上のバージョンにて提出する。図表の場合パワーポイントおよびエクセルとする。ソフトのバージョンや互換性等の関係からフォーマットが崩れたり文字化けが生じた場合は、原稿を印刷したものを 1 部編集委員会事務局まで送付するよう依頼する場合がある。
17. その他
著者校正は 1 回とするが、誤植のみの訂正とし、追加や書き改めは認めない。
別刷は有料とし、別途実費を申し受ける。
18. 投稿ならびに問い合わせ

〒 243-0034 神奈川県厚木市船子 1737

東京農業大学農学部バイオセラピー学科伴侶動物学研究室

特定非営利活動法人 動物介在教育・療法学会編集委員会事務局 宛

電子メールアドレス：a3tsuchi@nodai.ac.jp